

平成26年度 教職員互助会モニター会議の概要について

- 1 開催日時 平成26年8月27日(水) 14時00分～15時45分
 2 場 所 県庁行政庁舎14階 1405会議室
 3 出席者 10名
 4 議 題 互助会事業について

会議内容の概要については以下のとおり。

意 見	事務局の考え方
<p>1 施設利用補助について</p> <p>人によって必要なものが違うので、自分で好きな施設利用券を申請して貰えるようにできれば、利用する回数が増えて満足度が上がるのではないかと。</p> <p>一人あたりの上限を決めて、施設利用券を「100円券」「200円券」「300円券」という綴りにし、行きたい施設で何回でも使えるようにできないかと。</p>	<p>現在でもまとめられるものについては「共通利用券」としている。施設側の事情で共通利用券にできないものもあり、今後、施設利用券綴りを作成する際、共通化できるものは共通にしていきたい。</p> <p>また、施設利用券の枚数についても、財政状況を見ながら検討したい。</p>
<p>無料券だったのが、段々と実質負担額が増えてきている。</p> <p>折角補助するのなら、それなりの金額でなかったら施設には行かないのではないかと。</p>	<p>昨年度、事業の見直しをする中で、公平性の観点から補助額を圧縮させていただいた。</p> <p>特に今年度から、短期・長期の掛金率を元に戻しており(長期掛金6.5/1000→7.0/1000、短期掛金3.5/1000→3.0/1000)、一定の見直しはやむを得ない。ご理解願いたい。</p>
<p>施設利用券をもう少し絞って、補助額をもう少し増やせないかと。</p>	<p>掛金の総額が減っているため、今後、補助を増やしていく見直しは厳しい。</p> <p>補助額を増やすとすれば、利用率の低い施設を廃止するといったことと合わせて行う必要がある。</p>
<p>メリットが薄いような気がする。もう少し割合を変えて、「貰って良かった」「使おう」というようなあり方を検討してほしい。</p>	<p>補助を受けることで、若干なりともメリットを感じていただけないかと考えている。</p> <p>特定の人だけにメリットがあるような見直しは行っておらず、様々な年齢層の方がメリットを感じるように引き続き検討していきたい。</p>
<p>家族に中人がいない。中人、小人券は利用者が自分で選択できるよう、統一できないかと。(自分で記入欄に中人、小人と書いて、それに応じた補助を受ける。)</p>	<p>施設毎に、大人、中人、小人の補助額が異なるので施設側も混乱する可能性がある。また、事務管理の面で取って色分をし、見やすく、チェックし易いようにしている。</p> <p>将来的に、中人の利用がほとんどされていないということになれば検討したい。</p>
<p>よく日帰り温泉に行くことがあり、施設利用券があれば良いと思う。</p>	<p>新たな施設の追加は、財源的に困難である。</p>
<p>リフレッシュ・ライフ補助について、今年は補助が少なくなったので申込みをしなかった。</p>	<p>リフレッシュ・ライフ補助は、利用者が偏っていることや、1回当たりの補助が高額のため、公平性の観点から宿泊補助と同様に2か年で廃止することとした。</p>

意見	事務局の考え方
施設利用券の利用者の割合はどれだけか。	昨年度、会員の43%が、少なくとも1枚は使用している。
施設利用券を、必要な時に必要なだけ、職場で発行すれば印刷費用がかからない。	印刷費や管理面を考えると、各所属で発行するよりも現在の方法が適切と考えている。 できるだけ共通利用券にし枚数を減らすことで、コストを圧縮したい。
施設利用券を、利用しない人から貰ったりできないか。	職員同士の譲渡や別の方に名義を貸して利用することは認めていない。
窓口で支払う金額がいくらか分かれると嬉しい。	窓口負担額を表示できるものは行っているが、大人、小人など複数の料金区分のあるものは、補助金額だけを記載している。 (「教職員互助会事業のお知らせ」を参照願いたい。)
2 事業全般について 互助会の結婚祝品は是非残してほしい。困った人を助けるのが互助の精神だと思うが、めでたいことを皆で祝福するというのも互助と思う。互助会の一員であることのメリットを感じさせるような事業をお願いしたい。	現時点で廃止する考えはない。
共済や民間保険により、病気などの備えは各自が行っており、互助会に依存する部分は減ってきているのではないか。	互助精神のもと、一定程度の医療給付をすることは必要と考えており、財政状況を見ながら、できる限り継続して行きたい。 なお、引き続き会員の意見を聞きながら、見直しの検討をしたいと考えている。
施設利用券は、利用率の低いものについては外し、他に共通で利用できる事業があれば綴れば良い。 私が加入する団体の映画チケットの販売は、民間よりも安い金額でないと利用者が減る一方なので、民間よりも有利なサービスを提供する観点で事業を組んでいる。 ニーズの見直しと新規事業の掘り起こしは、事務局だけでなく、会員をメンバーに含めた形で、3か月ぐらいのスパンで、フットワークの軽い動きで行っていけばどうか。	提携している施設は硬直的になっているのは事実であるが、施設側に事務負担をお願いしていることから、フットワークを軽くできないところもある。 映画券は互助会の負担のない団体割引であり、民間より安くというのは財政状況から難しいと考えている。 会員から様々な意見をいただき、見直したほうが良いということであれば、検討する必要があると考えている。
3 インフルエンザ予防接種助成について 巡回等による接種の助成ではなく、子供の医療費助成制度のように医療機関で費用の一部を免除してもらおう形にできないか。 人間ドックのように定員が決まっているのか。	医療機関で費用の一部を免除する仕組みは事務手続き上非常に煩雑となる。また、多くの医療機関からの請求に対しては、管理上困難であることから ①各地区に会場を設け、医師、看護師を派遣して集団で受ける接種 ②県庁職員診療所での接種 ③予防医学協会での接種 を考えている。 希望者は全員接種できるようにしたい。

意見	事務局の考え方
<p>4 風疹検査助成について</p> <p>妊婦自身だけでなく、その配偶者にも風疹検査を受ける機会（補助）を設けてほしい。</p>	<p>県（健康福祉部）の事業で「妊娠を希望する女性」「妊娠を希望する女性の配偶者などの同居者」等を対象とした、無料の風疹の抗体検査があり、そちらを利用してほしい。</p>
<p>5 思いでづくりの旅について</p> <p>「思いでづくりの旅」事業の対象旅行を退職年度に限定しないで、例えば退職後1年以内の旅行までを対象にできないか。</p>	<p>退職すると互助会の会員ではなく、会員資格のない方に助成するというのは、現職の会員の方の理解が得られないと考えている。</p> <p>必要性も含めて引き続き検討したいと考えている。</p>
<p>6 特別出産補助金について</p> <p>第3子目以降の特別出産補助金は、引き続き続けてほしい。</p>	<p>少子化対策の一助を担っていると思うので、できる限り続けて行きたい。</p>
<p>7 死亡弔慰金について</p> <p>短期掛金は給料の千分の3で、年間1万2、3千円になるが、その金額をやり繰りしながら事業を行っていることを前提に考えていくと、あまり過大な期待をしてもいけない。</p> <p>もし、医療補助金の給付を下げる話になった時には、そちらよりもずっと金額が変わっていない死亡弔慰金を下げる方が先ではないか。</p>	<p>他の給付とのバランスを考えて、非常に高いという意見が大勢を占めれば、検討しなければならないが、基本的に殆どの方が親族の死に立ち会うという意味では公平性が損なわれることもないと考えるので、現状では継続したい。</p> <p>事業については、引き続き必要性等を十分見て、実績を見ながら検討して行きたい。</p>
<p>8 財源の安定について</p> <p>財政難であれば、それに見合った会費制にしたらとよい。会費の徴収の仕方も支出に見合ったものにしたらどうか。意外と会費定額は、若い人にも理解を得られると思う。</p>	<p>会費の定額制については、互助会は規則上加入が義務づけられているため、年齢が上がり給料が上がれば、最終的には何十年のスパンで考えた時に、総額で同じような金額の会費を負担していると思う。現時点では、定率制が理解を得られていると考えている。</p> <p>また、事業は限られた財源の中で行っているのだから、中身等については常に注視して、必要性がなくなったものについては廃止するし、ニーズが高く公平性が担保できるものについては、導入して行きたいと考えている。</p>
<p>財政の安定については、受益者負担を上げる方が公平性があるし、補助率が下がっている話があったが、払ったお金と貰ったお金の相殺を考えるとやむを得ないと思う。</p>	<p>財政状況に見合った見直しを昨年実施したが、当然今の状態がベストとは思っておらず、一定期間毎に引き続き見直しは継続していきたいと考えている。</p>
<p>今後、掛金率が上がっていく見込みか。昨年度の大きな見直しで5年間は大丈夫であるという話だったと思う。</p>	<p>互助会は一定の剰余金があり、仮に単年度収支がマイナスになっても5年間は大丈夫ではないかと試算している。</p> <p>突発的な事象が起こらない限り、掛金率(千分の10)を引き上げることは考えていない。</p>

意見	事務局の考え方
<p>9 その他</p> <p>互助会に公平性を求めるべきものなのか。互助会は助け合いの場であるから、給付事業はそもそも公平性の概念に反すると思う。一定金額を毎月助け合いのために支出していて、決してキャッシュバックを期待したり、積立として支出しているのではない。</p>	<p>様々な意見があると思うが、均衡を保ちながらも、互助精神は当然持っていなければならないと考えている。</p>